

30歳、人間で言えば成人を過ぎて体力的にもピークを過ぎようとする年月である。

30年の歴史を持つ岡崎市大会は同じテレインを使用しながらも、いまだ進歩を続ける。「継続こそ力」を実践している。

伝統のイベントに新たな活力

1月26日に第58回岡崎市オリエンテーリング大会が岡崎市教育委員会、岡崎市オリエンテーリング協会の主催で、岡崎市中央総合公園東側の林を使って開催されました。この大会のコースプランナーを担当していただいた、安齋秀樹さんに今回のコンセプトとこれからの彼の考えを述べてもらいました。今大会は今まで使ってきた「岡崎中央総合公園」(1997年作成)を使い果たし、リメイクしたものです。私(小野)が11月から急遽、インカレ調査に入ったため、一部従来のままのところがありますが、今回走っていただいた範囲の精度はかなり向上したと思っています。是非トレーニングにもご利用ください。

コースプランナーより

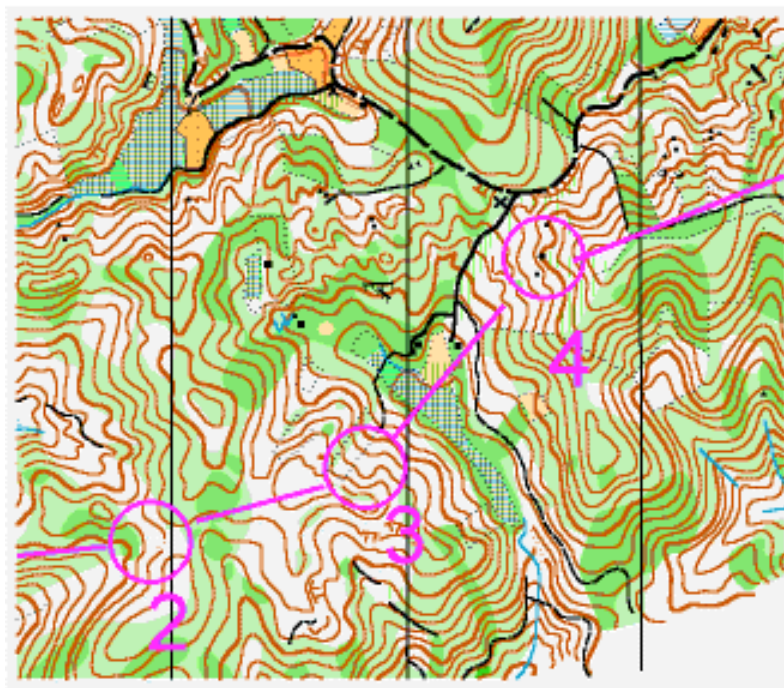
(安齋秀樹)

岡崎東公園、中央総合公園を中心に開催されてきた岡崎市オリエンテーリング大会も今回で58回(約30年)となりました。私自身、中学生の時から参加していましたが、今回は初めて運営に携わることになりました。

この大会は地元の愛好者はもちろん、初心者にとっても敷居の低い大会で、テレインの性質上、技術的にも難易度の高いコースを提供できるため、関東・関西の上級者にとっても魅力のある大会になってきています。

コースを組むに当たって意識したことが2つあります。

一つ目にはインカレや全日本に向けての調整として参加して下さる方のために、最上級クラス(21A)にエリート級の難易度のレッグを設けたことです。



精度が向上した岡崎市大会の地図。さまざまなコースを組めるようになった。

藪の中の方向維持と地形の情報を読み取る技術を求めるショートレッグと、正確なルートプランを求めるロングレッグを用意しました。それ以外のレッグと、ほかのAクラスでは難易度を上げずに気持ち良く回れるコースを用意したつもりです。

もう一つは初心者にもオリエンテーリングらしさを感じ取ってもらうために、テープ誘導をつけて林の中の直進するレッグを用意したことです。これは、北欧の大会の低年齢クラスで採用されることがあります。また、道回りの迂回ルートか林の中を突っ切るか選択させるレッグも用意しました。多くの方には楽しんでいただけたようですが、子連れの方も多く見られて一部の方は大変な思いをされたようです。

毎年秋と冬の2回開催していますが、私の個人的な考えでは、それぞれのコンセプトを明確にしてより多くの方に参加しやすい大会にしたいと思います。

冬は今回のようにテクニカルなレッグを入れること、他のAクラスでは全日本大会に向けて基本的な技術を確認できるようなコースにしたいです。また、初心者にも森の中の不整地を通る体験をしてもらいたいです。

秋は植生が悪くなるので、初心者にはパークOを、上級者にはクラシックのレースではなくショートとパークOの2種目を走れるようなイベント性の高いものにしていきたいと思っています。(あくまでも個人的な意見ですが)

使用する地図も毎回使う部分の精度を上げて、最新のデータでプリンタ出力した地図を使っていけば、参加者に満足していただけたと思います。次回も皆さんに満足していただける大会にしていきたいと思っています。

成績

M21A

- 1 田濃邦彦(静岡 OLC) 73:57
- 2 北原裕(浜松 OLC) 77:53
- 3 鈴木陽介(京大'07) 78:12

W21A

- 1 落合志保子(ルーパー) 60:55
- 2 榎原明美(浜松 OLC) 81:07
- 3 北原静香(浜松 OLC) 81:28

(小野盛光)